

## 委員会先進地視察報告書総括表

1 視察日	令和 4年 11月 8日 ~ 11月 9日	
2 視察地・項目	① 神奈川県 横須賀市	予算決算常任委員会について
	② 埼玉県 所沢市	・高校生との意見交換会の開催について ・本会議インターネットライブ中継(字幕入り)について
	③ 県 市・町	
	④ 県 市・町	
3 参加者	1. 山北 正久 委員長	7. 吉田 博 委員
	2. 中崎 秀紀 副委員長	8. 田中 秀和 委員
	3. 高濱 広司 委員	9. 永尾 高宣 委員
	4. 晦日 房和 委員	10. 朝長 英美 副議長
	5. 松尾 祥秀 委員	11. 百武 修一 随員書記
	6. 竹森 学 委員	12.
4 視察経費	617,680 円 ※(11)人分	

# 委員会先進地視察報告書

報告者 中崎秀紀

1 視 察 日	令和 4 年 11 月 8 日 (火曜日)		
2 視 察 地	神奈川県		横須賀市
3 参 加 者	議会運営委員会		
	1. 山北正久	委員長	7. 田中秀和
	2. 高濱広司	委員	8. 永尾高宣
	3. 晦日房和	委員	9. 中崎秀紀
	4. 松尾祥秀	委員	10. 朝長英美
	5. 竹森 学	委員	11. 百武修一
	6. 吉田 博	委員	12.
4 視 察 項 目	予算決算常任委員会について		
5 視察先選定理由・目的	一般会計に関して(仮称)予算決算常任委員会を導入することと決定されたことから、先進地の状況を確認し導入に向けての参考とするため		
6 視 察 内 容	<p>神奈川県横須賀市議会 概要</p> <p>市制施行 明治 40 年 2 月 15 日 中核市移行 平成 13 年 4 月 1 日</p> <p>面積 100.82K㎡</p> <p>人口 380,492 人</p> <p>議員数 40 人 常任委員会 5(予算決算含む)</p> <p>議会改革ランキング 2021 37 位(総合) 大村市 288 位(総合)</p> <p>調査項目</p> <p>① 予算決算常任委員会設置の目的・経緯について</p> <p>従前は、予算議案は 4 つの常任委員会に分割付託し各常任委員会で予算を審査し採決を行い、決算議案は決算特別委員会(10 名)を設置して審査し、採決を行っていた。委員の負担が大きいことと決算を予算に反映しにくいこともあり、平成 20 年 10 月から議長の諮問機関である「第 3 次議会制度検討会」を設置し、先進地視察を含め延べ 18 回検討を行った。平成 22 年 6 月に予算決算常任委員会設置に関する答申、平成 23 年 2 月に同委員会の運用に関する答申を経て、平成 23 年 3 月に予算決算常任委員会運営要綱を制定した。</p> <p>予算決算常任委員会の設置の目的は、(1)従来の分割付託による審査方法は、各委員会での表決結果が異なる可能性があるなどの矛盾が生じることから、これを解消する。(2)予算審査と決算審査を同一議員が行うことにより、総合的・一体的な審査を行うとのことである。</p> <p>② 予算決算承認委員会の運営方法について</p> <p>(1) 予算決算常任委員会 委員は全議員(ただし議長は議決を経て辞任)</p> <p>委員長は副議長 副委員長は議会運営委員長</p> <p>出席理事者は本会議と同じ</p>		

	<p>(2) 理事会 理事は各常任委員正副委員長と委員長・副委員長</p> <p>(3) 分科会 部門別常任委員会と同じ 予算決算委員会の流れ 理事会→議会運営委員会→本会議→予算決算常任委員会→分科会(採決無)→理事会→予算決算常任委員会(総括質疑・討論・採決)→本会議 なお、総括質疑は通告制で持ち時間 20 分とし自席から一問一答形式となっている。決算議案審査においては、分科会へ送付前に会計管理者の報告を徴した後、監査委員からの報告を聴取し、同報告に対する質疑を行う。(監査委員出席)</p> <p>③ 予算決算常任委員会による効果 (1) 分割付託解消による円滑な議案審査 (2) 同一議員が予算決算審査を行うことによるチェック機能の強化 (3) 議案採決を行う本会議の開催時間減</p> <p>④ その他 従前と比べ理事会・予算決算常任委員会のプロセスが増えたことで3日から4日会期日数が増加した。 分科会・常任委員会の切替を必要とする。 一般質問は10名程度で2日の日程を取っている</p>
7 委員会所見	<p>予算決算委員会の設置は、議案一体の原則に反することから本議会においても、一般会計に関して(仮称)予算決算常任委員会を導入することを決定している。横須賀市議会においては先に、決算については特別委員会を設置して審査していたが、委員は負担が大きく、他の議員については予算・決算の反映が困難な状況となっていたことから、設置による効果は大きかったものと考えられる。また、一般質問の日程が2日から3日と短いことも審査日程の確保を容易にしている。</p> <p>予算決算常任委員会の設置は、メリットを求めるものでなく、議案一体の原則に則ることを目的としていることから、如何にして円滑な審査を行っていくのか、議会のチェック機能を向上させていくのかが大きな課題である。今回の視察の所感として、本議会が分割付託ではあるが、丁寧な審査を実施してきたのではないかと感じている。</p> <p>本議会では一般質問が活発であることから、日程の調整や審査プロセスの検討が必要になるものと考えられる。これから導入に向けて、運営要綱を定めていく必要があるが、横須賀市議会の要綱や先進議会の要綱を参考に、本議会にあったものを作り上げていくことが必要であると感じた。</p>

# 委員会行政視察報告書

報告者:吉田 博

1視察日	2022年11月9日(水曜日)	
2視察地	埼玉県 所沢市	
3参加者	1. 山北正久 委員長	7. 田中秀和 委員
	2. 中崎秀紀 副委員長	8. 永尾高宣 委員
	3. 高濱広司 委員	9. 吉田 博 委員
	4. 晦日房和 委員	10. 朝長英美 副議長
	5. 松尾祥秀 委員	11. 百武修一 書記
	6. 竹森 学 委員	
4視察項目	①本会議ライブ中継における字幕表示について②高校生との意見交換会について	
5視察先選定理由・目的	①令和4年6月定例会から、本会議のインターネット中継のライブ映像画面において、音声認識AIを活用したリアルタイム字幕がスタートしている。導入に至る経過や費用対効果を調査し、本議会の参考とするため。 ②議会広聴について、議会の市民の関りにおいて、特に若年層である高校生との意見交換会を実施している。取り組みの経過や事業の内容などを調査し、今後の本市議会の活動の参考にするため。	
6視察内容	<p>●所沢市の概要</p> <p>▶人口 344,253 人・総面積 72.11 km<sup>2</sup>(大田市 126.3 km<sup>2</sup>)。</p> <hr/> <p><b>Q1:音声認識AIを活用したリアルタイム字幕を始めた経緯について</b></p> <p>▶聴覚障害者の方々から、市議会が行っているライブ配信に字幕の要望があった。令和4年6月定例会から、インターネット中継(ライブ配信)画面に音声AIを活用したリアルタイム字幕を自動的に表示する機能を導入。業者委託。</p> <p>▶本会議場の傍聴席に、字幕表示専用モニターを設置。UDトークという会話の見える化アプリを活用して、モニターに字幕表示を行っている。</p> <p>▶実際の会話と表示は1秒間ずれている。ライブ配信の場合はあまり気にならない。</p> <p><b>Q2:導入経費について</b></p> <p>▶ライブ中継の委託料は15万円(月)、字幕を入れる委託料は38,500円(月)。</p> <hr/> <p><b>Q4:高校生との意見交換会の取り組みに至った経過と概要について</b></p> <p>▶H23年5月それまでの「議会報・図書室委員会」を、広聴機能をさらに強化し議会運営委員会と役割を明確にして「広聴広報委員会」とした。</p> <p>▶議会の「政策立案」「政策提言」を積極的に推進するため「政策討論会」を実施。</p> <p>▶「政策討論会」の見てきた課題→活発なやり取りができているか・市民参加の充実など。</p> <p>▶H28年・H30年には議会の広聴機能の強化として、カフェスタイルによる市民と議員との懇談会を開催。→20~40代の現役世代を無作為抽出で参加者を募集。全体の進行を早稲田大学の教授と学生に委任。名称を「みみ丸カフェ」。</p> <p>▶R3年広聴広報委員会で高校生を対象とした取り組みの提起。</p> <p>▶政策討論会のパネラーとして所沢高校生が参加。</p>	

	<p>▶所沢高の教諭・生徒と話し合い、意見交換会方式の企画を打ち合わせ。</p> <p>▶20名の所沢高校生が参加。</p> <p><b>Q5:事業を実施したことで得られた効果について</b></p> <p>▶議会を身近に感じてもらった。</p> <p>▶政治(市政)に積極的に参加したいという声も多く聞かれた。</p> <p>▶高校生の声</p> <p>「15才から投票できたり、学校に投票所を設置してほしい」</p> <p>「小中学生のときから政治に対する知識を広めたり、市議会議員と交流する機会が増えればいい」</p> <p>「若者の投票率向上には、手軽に投票できるネット選挙という方法もあるのでは」</p> <p>「今度は生徒が運営主体になって、議員との意見交換会を企画したい」</p> <p>「議員の仕事はやりがいを持ってやっているということを知ることができた」</p>
7委員会所見	<p>●動画の字幕に関しては、技術的にはそんなに難しいとは思えない。聴覚障がい者または高齢者の方にとっても画面に文字が出てくればなお一層議会の議事が分かりやすくなると思う。そして議場の傍聴席に文字だけのディスプレイ画面を設けてあることに先進性を感じた。それは取りも直さず、聴覚障がい者の方々の積極的な市政への参加の現れの結果だが、大村市のことを考えると市政への積極的なアプローチが余りみられないことが今後の課題のように感じる。市議会も率先して開かれた議会を目指すことは大切だが、市民の積極的な参加を促していくためにはどうしたらいいかを常々考えていかなければならない。</p> <p>●高校生との意見交換会の取り組みは、「議会」の認知度を市民に上げていく一つの契機になっているし、所沢市議会の「市民に開かれたわかりやすい議会、負託に応えられる議会」を目指すという言葉通りの活動を示されている。大村市においても、選挙管理委員会によって「票育事業」が行われているが、大村市議会としては積極的な関わりをしていない。主権者教育を考えると、議会・議員は大きな存在だが、所沢市議会の一つ一つの活動の積み重ねに学んでいきたいと思う。</p> <p>●議会運営委員会としての地道な議会改革をどう進めたらいいかという議論も必要だと思う。こここのところについては今まで余り討論されなかったように思う。</p> <p>●大村市議会では「広報委員会」だが、所沢市議会では「広聴広報委員会」として市民に開かれた市議会を目指すという役割が大きい。そのことを大村市議会としてどう生かしていけばいいかも今後の課題のように思う。</p>